



日本共産党平塚市議会議員団

電話 0463-23-1111 (内線 2375)

平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

No. 1388 2017年1月8日発行

日本共産党平塚市議会議員団

団長 松本敏子

電話・fax 59-4607

mail@matsumoto-toshiko.jp

幹事長 高山和義

電話・fax 31-4638

k.takayama@mb.scn-net.ne.jp

渡辺敏光

電話・fax 31-6431

w-toshi@agate.plala.or.jp

日本共産党議員団の法律相談

今回は1月19日(木)です。

午後4時～6時(要予約)

## 新年あけましておめでとうございます

市民の思いが反映する平塚市政実現に向け今年も頑張ります

日本共産党平塚市議会議員団一同



渡辺敏光 (落合市長) 高山和義 松本敏子

### 2017年度予算要望書を提出

私たち議員団は、市民の声に耳を傾け生活の中からの思いを受け止めて議会活号に反映してきました。市民のくらしと福祉・教育を守るために、国にも平塚市にもはっきり物申していく議員団であり続けたいと考えてきました。今後もその姿勢を貫いてまいります。

## 若者が将来に確かな展望が持てる働き方を

「8時間働けば普通の生活がおくれる」労働環境を

渡辺 敏光

年末の報道で大きく取り上げられたのが、電通での女性新入職員の過労自殺問題。違法な長時間労働だと、東京地検は書類送検した。

政府は今、「働き方改革」を目玉政策として位置づけている。なによりも大事なことは、「8時間働けば、普通の生活がおくれる」働き方ではないか。

今回の過労死問題から、企業の考え方、労働者の意識、生活実態まで掘り下げ、悲劇を根絶すべきである。

### —将来に展望が持てる労働条件の実現を—

今さら何を、と思われるかもしれないが、昨年秋に知人の女性から聞いた仕事の実態は本当に驚いた。派遣職員としてアパレル(既製服関係)で働いている。

○派遣社員でも、正規職員と同じようにノルマがある。ノルマが達成できない状況が続くと、雇い止めになる。

○店で着る「制服」を、毎月その店で購入しなければならない(安い製品ではない)。

○派遣先への交通費は、自己負担。遠い場所なら当然負担も多くなる。

本人や家族に、病気や介護が必要になった場合、当然生活が立ち行かなくなる。若者が将来に対し、展望がもてる。それはまずは正規職員として働くことからである。あらためてそのことを訴えたい。

### —何を指し、どこまで自分を高められるか—

昨年6月に60歳になった。こんなにもいろいろなことを考えるものなのか、と驚いている。

この18年間、たくさんの声に励まされ、様々な指摘に反省もし、教訓にもし、昨年よりも力をつける、そのことを目指し取り組んできたつもりだ。

60歳の節目の年。あらためて考えてみたい。これからさらに何を指し、どこまで歩いて行けるのか。

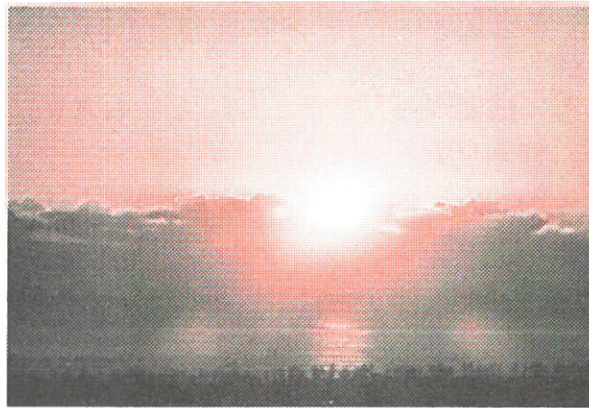
年末にある女性から言われた。私の歳に「まだ若いんですね。私は90歳を超えたけど、まだまだやりたいことがたくさんある」と。

以前は市役所の旧庁舎を、4階までいつも駆け上がっていた。新庁舎の議事堂は8階。エレベーターを使わず、8階まで駆け上がる体力・気力はまだ残っているつもりだ。



本年もよろしくお願ひいたします

みなさんの思いを市政に届け、安心して住み続けられる  
平塚市にするために奮闘してまいります 高山和義



平塚海岸からの2017年初日の出

2017年の新しい年が明けました。昨年中のご厚意に深く感謝するとともに、今年が皆さんにとって良い年となることを年頭にあたり願っております。

### 安倍政権の暴走にストップをかけ憲法違反を許さない運動を広げる年に

昨年は、安倍内閣の国民の声や憲法の基本理念さえも無視した大暴走国民の怒りが沸騰しました。安倍内閣は、国会周辺や全国からの『戦争法反対』の声を無視した安全保障法制の強行採決を反省するどころか、昨年末には、南スーダンに派遣される自衛隊へ「駆けつけ警護」を付加しました。さらに、TPPや年金カット法案の強行、会期末直前にカジノ推進法を提出し、会期が終了する直前に2度も会期延長を強行して通過させるなど、異常な国会運営が続いています。

昨年の参議院選挙では、全国32の1人区で市民と野党の共闘が成立し、11の選挙区で野党候補が勝利することができました。衆議院でも全国300の小選挙区で市民と野党が共闘することができれば、安倍政権を倒すこともできます。私たちの神奈川15区でも市民と一緒に戦って戦後最悪の安倍暴走政治をストップさせるために力を合わせましょう。

### 国・県の悪政から市民を守る平塚市政実現のため全力を尽くします

平塚市議会では、9月議会から、請願者が議会で請願趣旨や意見陳述を直接述べることができるようになりました。議会改革の一環として、議会運営委員会で議論を進め全会派の合意を見ることができました。また、私たち議員団は、昨年12月に平塚市の2017年度予算編成に対し、市民の命とくらし最優先、子育て支援と福祉の充実を求め、市長に予算要望を提出しました。市民のみなさんのくらしと福祉を守り、安心して住み続けられる平塚市にするため今後も全力を尽くしてまいります。



## 「ポスト真実」の政治を認めない力を 私たちは、事実に基づく政治を求めます

松本 敏子

昨年の暮れ、オックスフォード英語辞書は、2016年世界の今年の言葉として「ポスト真実」という言葉を発表し、「非常に緊迫した」政治的な1年を反映する言葉として選んだと説明しています。

### — 「ポスト真実」とは —

客観的な事実や真実よりも、感情的な訴えかけの方が世論に影響を与えるという意味で、昨年6月にイギリスでEU離脱の賛否を問う国民投票の最中に行われたデマ宣伝や、11月のアメリカ大統領選でトランプ氏が、オバマ大統領やクリントン候補に対し事実に反する言動を繰り返し、勝利したことを憂慮したものといえます。

「ポスト真実の政治」がヒタヒタと世界に広がっていることに非常に危機感を感じます。

### — 日本も例外ではない —

1月4日、共産党志位和夫委員長が「党旗開き」で、「ポスト真実」の政治は安倍政権の正体であると語った時、私は「その通り！」と得心したのです。

安倍首相がオリンピック開催地を勝ち取りたいために世界に向かって「福島放射能は完全にブロックしておりアンダーコントロールだ」と発言したのは忘れもしません。

憲法違反の「安保法制」も、90%もの憲法学者が「違憲」といっても国会の数の力でごり押し。自衛隊を南スーダンに派遣する際も、虐殺や戦闘が繰り返されているのに「戦闘行為ではない、衝突と認識している」とうそぶいて派遣。もともと危険が指摘されていたオスプレイが沖縄に墜落した時も、墜落と言わず「不時着」・・・、言い出したら切りがないウソとごまかしの政治がまかり通ってきたのですから。

### — それには背景が・・・ —

貧富の格差拡大に不満を募らせ、社会の急激な変化を求めるあまり、事実や真実に基づかない主張であっても、憂さを晴らす材料として感情的な面から安易に受け入れられてしまう実態。

またマスコミも、政治家の言動を事実かどうかの検証をせず、そのまま報道し、それが次々と拡散されていくネット社会と報道の姿勢にも問題があると思います。

このような「ポスト真実」の政治がまかり通っていいはずがありません。しかし選挙は数の力。どんなに真実を伝え、国民の目線で訴えても、マスコミと私たち1人1人が「真実」を見極める力を持たなくては「ポスト真実」に流されてしまいます。今年の選挙では、ごまかしは許さない力を身につけていきたいものですね。